

2003.10.12.

日本教育工学会第19回全国大会
シンポジウム 2 - 1
教育工学の研究方法論を探る

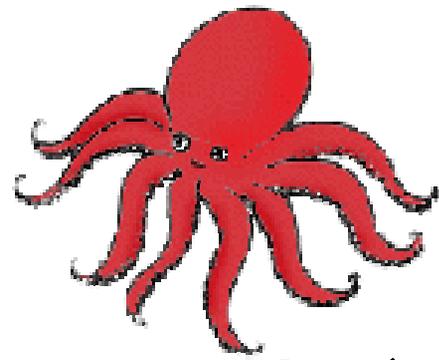
タコツボをどう脱するか

教育デザインの立場から

鈴木克明（岩手県立大学）

ksuzuki@soft.iwate-pu.ac.jp

<http://www.et.soft.iwate-pu.ac.jp/>



タコツボをどう脱するか？

- 我が国の教育工学は、研究者の出身講座で研究スタイルが決定する「**タコツボ状態**」にある。質的研究の隆盛で、認知的徒弟制とのラベルを与えられて、研究者養成の現状が肯定されたかのような感がある。
- 本稿では、学会の共通基盤として何が必要かを洗い出し、情報技術を駆使するなどして**協同で大学院の充実を図るべきだ**との立場から、教育デザイン研究の研究者養成について述べる。

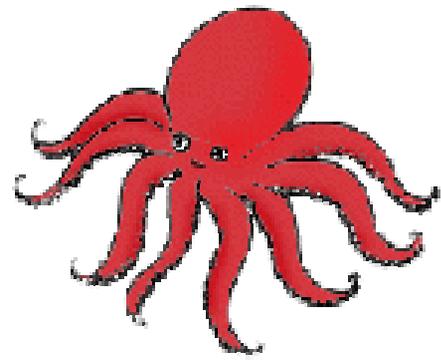
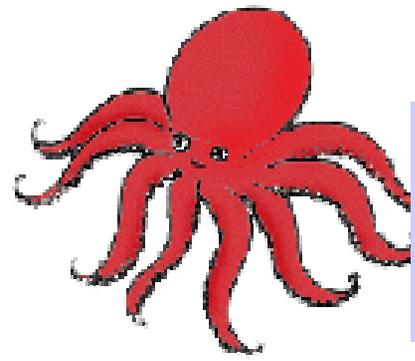


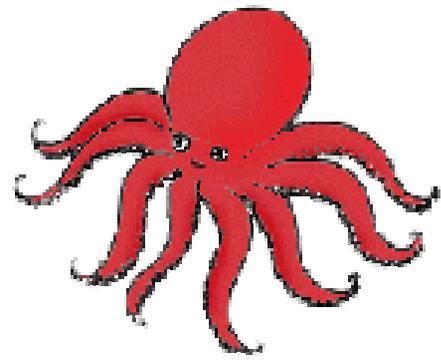
表1 . 教育デザイン研究 の種類

- 記述研究
- 処方研究(デザイン研究)
- 授業分析への適用
- 評価研究
- 開発研究
- 教授研究



一人前の研究者になる？

- これらの異なる研究をすべて一人の研究者が実行できるようになることが望ましいと考えられるが、たとえば修士論文や博士論文で取り上げるのはいずれか一つだけである。論文とは別に研究手法の訓練が必要である。



3 . 米国における研究法 訓練プログラム

米国フロリダ州立大学大学院で筆者
が履修した科目 (1983-87)

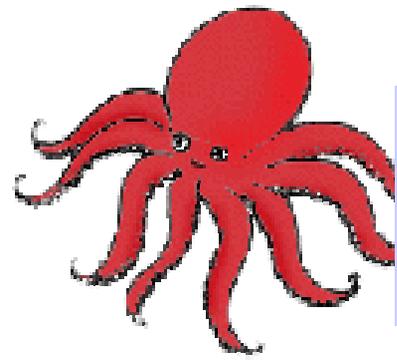
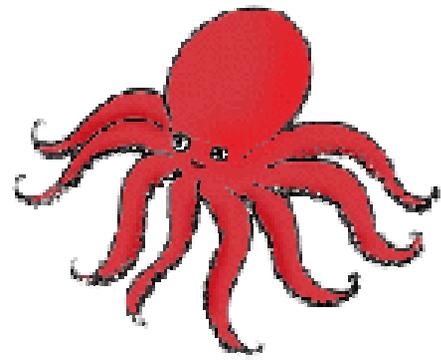


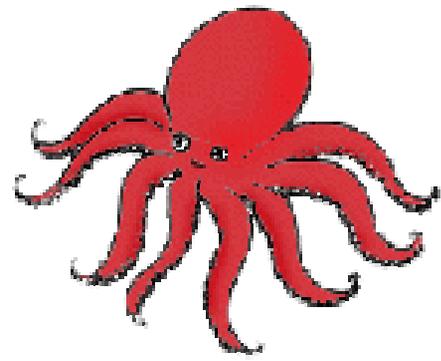
表 2 . 研究法訓練科目の一例

- 教育研究法
- 学習研究実習
- 開発評価研究法
- 学習問題の分析Reiser
- 学習問題の分析Briggs
- 形成的評価技法
- 学習成果の評価
- 教育実践の評価
- 統計学関連7科目



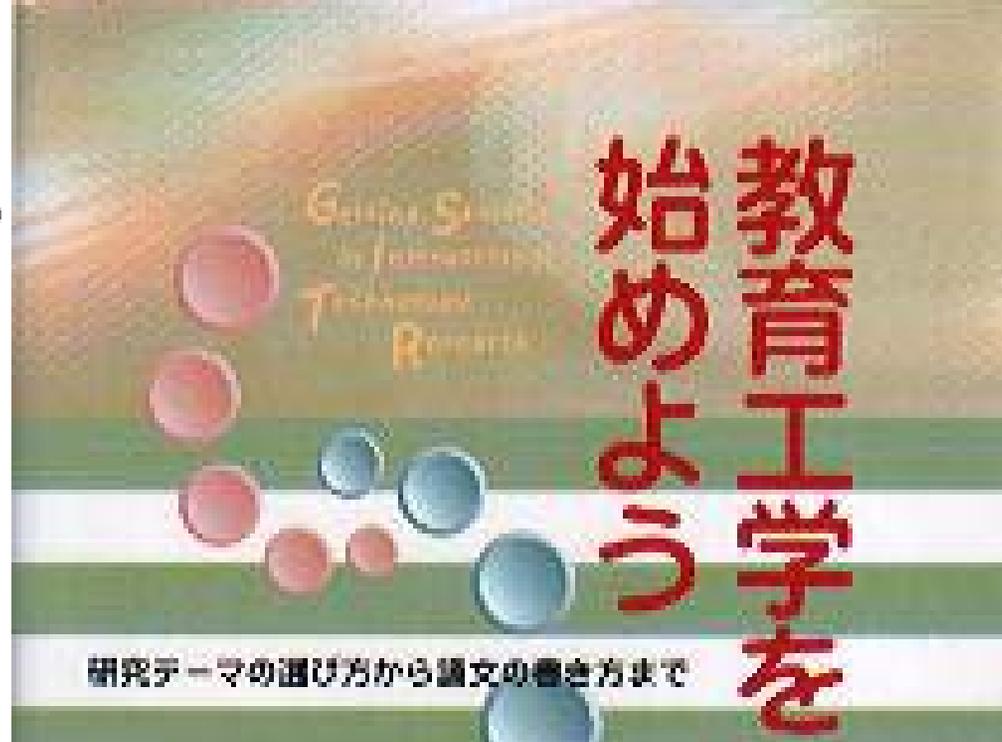
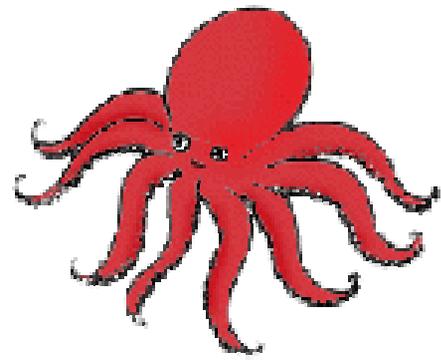
懇切丁寧な指導

- 各科目(それぞれ3 - 4単位)では、講義とともに演習が含まれており、実際の論文作成さながらの実践的なレポート作成が要求されていた。それを科目担当教員がていねいに添削し、研究課題の設定や用いる研究手法の選択、あるいは研究計画から論文の書き方に至るまで、様々な考え方に触れることができた。

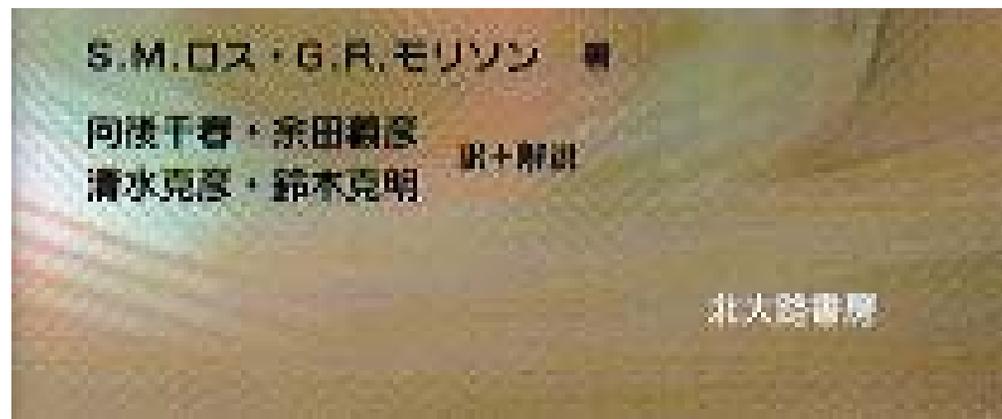


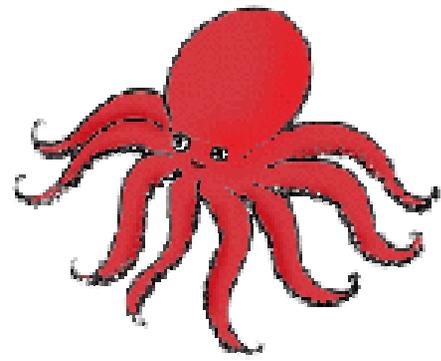
日本でも！

- 我が国の教育工学研究者養成機能の向上をめざした段階別共通カリキュラムの策定と協同演習の実施が急務である。



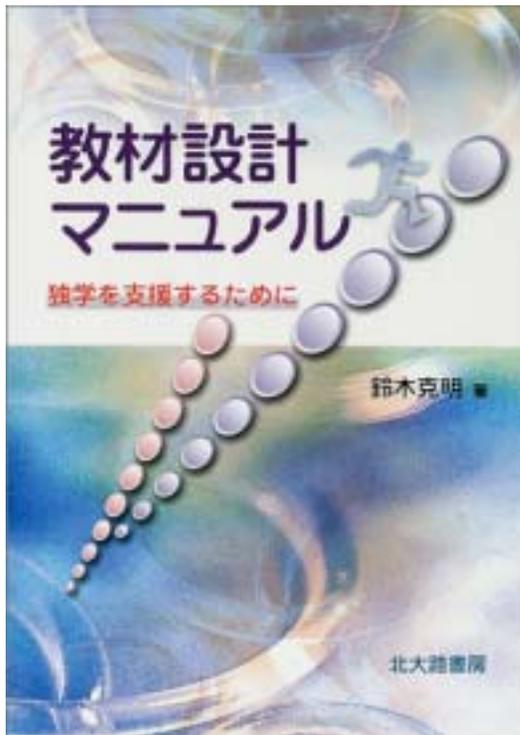
- Getting Started in Instructional Technology Research
- AECTホームページで公開

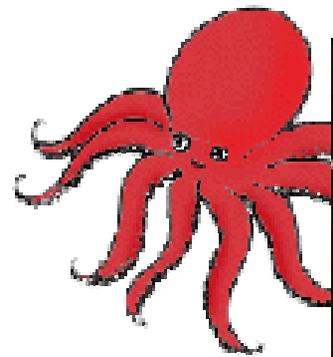




テキストは？

- 『教育工学事典』(2000)は、教育工学の研究領域紹介として必須図書とすべきだろう。AECTが企画・刊行した1300頁を越える大著『教育工学ハンドブック』(1996)をWebサイト上に公開したことを踏まえて、研究者の裾野を広げる工夫が求められる。





HANDBOOK OF RESEARCH FOR

EDUCATIONAL COMMUNICATIONS AND TECHNOLOGY

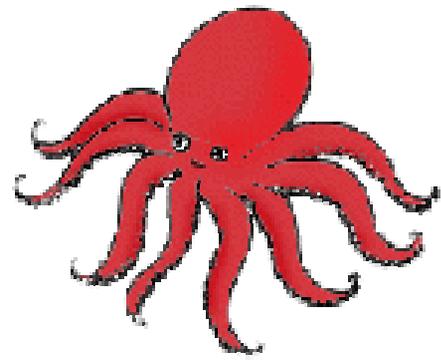
EDITED BY DAVID H. JONASSEN

aect

A PROJECT OF THE ASSOCIATION
FOR EDUCATIONAL COMMUNICATIONS
AND TECHNOLOGY

\$250.00

オンライン版
(会員無料
アクセス)



特訓コースの協同開発

- 研究法の訓練は、書物を読んだだけでは効果的ではない。認知的徒弟制でなくても、全国の研究者が得意な研究法を分担し、情報技術とTAを駆使して、**課題解決型の演習をベースにした特訓コースを協同開発**することも求められるのではないか。教員相互にも研究法のレパトリーを広げる効果も期待できよう。